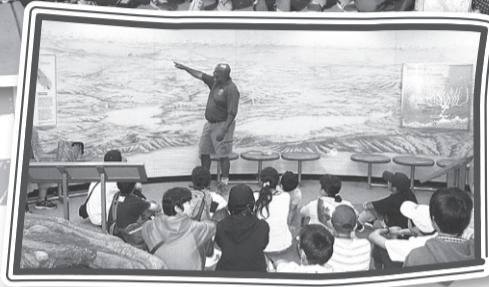


アメリカ班

アメリカ班は20名が7月25日から8月3日の10日間、姉妹都市であるサクラメント、その他サンフランシスコなどを訪問しました。



ドイツ班

ドイツ班は20名が7月21日から7月30日の10日間、姉妹都市であるフライブルク、その他スイスのジュネーブなどを訪問しました。



- 派遣事業概要 -

(公財)松山国際交流協会では、毎年夏休み中に「まつやま中学生海外派遣」を実施しています。

この派遣は、松山市の姉妹・友好都市での交流や体験学習、ホームステイなど、文化や言葉の違う人達との交流を通して、色々な価値観があることを学び、広い視野を持って物事を見ることが出来る国際性豊かな人材の育成を目的としています。

昨年度に「中学生チャレンジプロジェクト」(※1)へ登録し、1年を通じて国際交流活動に参加した中学生を対象に、派遣生の募集を行いました。その中から選考された40名が、4回の事前研修の後、アメリカ班、ドイツ班に分かれ派遣されました。この派遣を通して学んだこと、心に残ったことなどを本レポートにまとめました。

※1「中学生チャレンジプロジェクト」については本誌10ページをご覧ください。
※今年度の韓国班は派遣を休止しています。

派遣事業全体スケジュール

6月17日(日)	事前研修会
6月24日(日)	事前研修会
7月1日(日)	事前研修会
7月8日(日)	事前研修会
7月21日(土)	ドイツ班 松山空港発
7月25日(水)	アメリカ班 松山空港発
7月30日(月)	ドイツ班 松山空港着
8月3日(金)	アメリカ班 松山空港着
8月上旬	事後研修
8月18日(土)	報告会

事前研修



派遣先の文化やライフスタイルを理解するとともに、自分たちの国や街のことを再確認し、ホームステイ先でもきちんと紹介できるように、出発までの間、4回にわたり事前研修を行いました。




報告会

帰国後、それぞれの班が現地で学んだ知識や体験等を発表する「報告会」を行いました。



アメリカ班



CITY OF SACRAMENTO
サクラメント市

★アメリカ本土初上陸

愛媛大学教育学部附属中学校 安部 紗世



Kinuちゃんと

成田空港を出発して約九時間、私の空の旅は最悪でした。冷房効きまくりで涼しいというより寒く乾燥した機内、原因不明のアレルギー症状でくしゃみ、鼻水、目は充血。アメリカに着くころには心もネガティブになってしまいました。しかし、飛行機から降りると気持ちは一変しました。周りはみんな外国人、文字は全て英語表記、夏とは思えない涼しさ。「自分は今、アメリカにいる！」解放感と興奮で、なんだかすごく嬉しくなりました。

アメリカでの十日間で、一番心に残っているのは、ホームステイです。アメリカ人のお父さんと、日本人のお母さんと、私より学年が上のKinuちゃんという三人家族でした。本当の家族のように接してくれて、とても温かい方々でした。私は女兄弟がいなくて、Kinuちゃんが本当のお姉さんのように色々なことを教えてくれたのが

＜アメリカ班日程＞

第1日	7月25日(水)	松山発 サンフランシスコ着後、 サクラメントへ移動
第2日	7月26日(木)	サクラメント市庁舎見学 カリフォルニア州議事堂見学 オールドサクラメント散策 ウェルカムパーティー
第3日	7月27日(金)	金鉱発掘ツアー 鮭の養殖場見学
第4日	7月28日(土)	ホームステイ
第5日	7月29日(日)	ホームステイ
第6日	7月30日(月)	サンフランシスコ市内見学
第7日	7月31日(火)	NASAエイムズ研究センター ハーレイファームズにて 農場体験
第8日	8月1日(水)	LSIサンフランシスコにて 語学研修
第9日	8月2日(木)	サンフランシスコ発
第10日	8月3日(金)	松山着

とても嬉しかったです。ホームステイ中に、インドアスカイダイビングというのに連れて行っていただきました。部屋の中に大きなチューブがあり、そのチューブの中は下から風が吹きつけていてそこでスカイダイビングをするというものです。インストラクターの方と英語でコミュニケーションをとることができ、すごく楽しかったです。しかし、二つ不思議に思うことがありました。私の名前は「サヨ」なのに「Sayo」と名札に書いていたのですが、インストラクターの方に、「セイヨ」と呼ばれたのです。なんでわざわざ「A」を「E」と発音したのだろうと思いました。

今回の海外派遣で「怖がらずにやってみる」という力が身に付いたと思います。アメリカでは初めてだらけで怖がってしまっても大丈夫だけれど、思い切ってみようという大切さを学ぶことが出来ました。この経験を、これからに活かしたいと思います。

最後に、このような素晴らしい経験をさせてくださった、本当にありがとうございます。

★「ママ」が第二の故郷

済美平成中等教育学校 荒木 亮祐

初めて親元を離れ、ホームステイをこの情けない自分がするのだと思うと、最初は不安しかありませんでした。しかし、アメリカへ行くと英語力がなくても、どうにかなる！と思いき、デモンショを上げていたら本当にどうにかなるものでした。

僕の今回の研修で最高に楽しかった思い出は、なんとと言ってもホームステイです。ウェルカムパーティーの時から優しくしてもらい、拙い英語でも生懸命聞いてくれて本当に感謝しています。自分が黙っていても、ホストファミリーが積極的に話しかけてくれたので、いつの間にか仲良くなっていました。ホームステイ初日、大きいショッピングモールへ行った時、女性物の服を売っ

くジュエリーを使わないと通じないことがありましたが、ホストファミリーは真剣に理解しようとしてくれました。そこで、僕は伝えることの大切さを教えられました。日本では話している途中にうなずき、返答していますが、アメリカでは、YesやOKなどでハッキリ返答しないとダメです。それに僕は日本とアメリカの違いを感じ、ちゃんと自分の気持ちを伝えることの大切さを学びました。ホストファミリーは日本語にも興味があり、日本語を書いたり、読んだりして、楽しく過ごすことができました。

楽しく充実した十日間を過ごすことができ、僕はこの派遣に関わる全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験をもとに、もっと国際交流をしていきたいです。ありがとうございます。



お世話になったホストファミリー

★心の交流 in America

松山市立南中学校 岩本 太陽

僕の人生初のアメリカ。憧れの国であり、期待や不安など、様々な気持ちで交差する中、旅立ちました。長いフライトの末、降り立ったアメリカは、白人や黒人など様々な人種の人々がいて、言語の表記も英語色で、どうとうアメリカにやってくるんだということを感じました。

最初に訪問したサクラメントは、カラッととした暑さで、緑が多い街でした。それぞれの家にアメリカ国旗が飾られており、その光景にびっくりしました。市庁舎訪問や議事堂見学、また大学の寮への宿泊など、貴重な体験をすることができました。次に訪問したサンフランシスコは、とても寒かったです。有名なゴールデンゲートブリッジは美しく、ケーブルカーにも乗り、街を満喫しました。スケボーで移動している人がいて、自由の国を象徴しているように感じました。

数多くの出会いの中で一番印象に残ったことは、ホームステイです。蚤の市に行ったり、キャット体験、家のプールで遊んだりしました。ホストファミリーはとても優しく、楽しい時間と思いついたことをたくさん作ってくれて、感謝しています。この海外派遣で僕の英語はあまり伝わらな



カヤック体験

せんでしたが、お互いの心は通じました。人種が違っても、相手を理解しようとする気持ちが大切だと思いました。今までにない大切な時間を過ごすことができ、全ての人達との思い出は一生の宝物となりました。

★アメリカで学んだこと

済美平成中等教育学校 植松 啓太

僕がアメリカで学んだことは大きく分けて三つあります。

一つ目は、話しかけてみようかと迷った時にチャレンジできるようにしたこと。特にホームステイ中は、自分の英語の文法が合っているか発音がおかしくないかなど不安がありました。しかし、話さなければ伝わらないので、勇気を出してたくさん話しかけるようにしました。そして相手と話している英語が分からなくなっても、分からないということを自分がジェスチャーや顔の表情で表現して反応をもらうように心がけました。すると、相手がゆっくり英語をしゃべってくれたり、相手もジェスチャーや顔で表現してくれたり、絵を描いてくれたりするなどして、コミュニケーションがうまくいきました。

二つ目は、文化の違いです。自分と目が合った



ホストファミリーと釣り

★My American family

済美平成中等教育学校 掛下 樹丘



私の大好きな家族

人がニコッと笑いかけてくること、気さくに話しかけてくれること、あいさつの時に握手をするなど、とにかく陽気な文化を感じました。

そして、自分自身は多くの人に助けられていることを学びました。各施設の職員の方々、ホームステイ先のホストファミリー、引率してくれた先生方、添乗員さん、そして何より家族、たくさんの人々に助けられてこの十日間を過ごすことができました。だから将来は自分が助ける側になって、またこのような国際交流に貢献していきたいと思っています。

最後になりましたが、この十日間僕たちを支えてくださったみなさん本当にありがとうございました。

初めてホストファミリーと会ったウェルカムパーティーの時、緊張してしまいうように会話することができませんでしたが、ホームステイ初日も自分から話しかけることができました。沈黙が続く中、黙っているとホストマザーが「私たちは家族です。私は、あなたのお母さんです。だから遠慮しないで」と言葉を掛けてくれ、私は救われました。

緊張を理由にして、自分から話しかけずにいると何も始まらない。英語が喋れず、ずっと黙りこんでいても何も成長しない。アメリカは私にこれらの大事なことを教えてくれました。アメリカでは、自分の不甲斐無さを再確認させられましたが、この十日間、日本では学べなかった経験で本当に視野が広がり、価値観が変わりま

した。これからアメリカで学んだ事を生かして行く」と思います。

十日間で学んだこと

松山市立興居島中学校 栗田 希帆



ホームステイ先の家族と

飛行機から見えた山が二面に広がる広大な景色に私は息を呑みました。郊外に出ると砂漠のように見える枯れた草が二面に広がり、家々が立ち並ぶ景色を私は生忘れな気がします。一番心に残ったのはやっぱりホームステイです。ホームステイでは英語で話す機会がたくさんあり、単語や簡単な文法だけでも会話することができるようになりました。しかし、相手が私の知らない単語を言うと、私は混乱してしまい、落ち込んで聞けば分かるものでも、分からなくなってしまうことが多々ありました。ですが、ホームステイ後半になると、少し落ち着いて聞くことができるようになりました。落ち着いて聞くことができるようになると、会話が弾みとても楽しかったです。ホームステイを通して、自分の英語でコミュニケーションできることが分かり、自信につながりました。

アメリカに行くことで、日本とアメリカの違いや、日本の良いところ、またアメリカの良いところをたくさん見つけることができました。ネイティブの英語を肌で感じ、またまだまだたくさん勉強して、たくさん外国の方とお話をしたいと思いました。これをきっかけに、これからもどんどん外国の方と関わり、異文化交流をし、自分の視野を広げていきたいと思いました。

Another Hometown

松山市立余土中学校 佐伯 万由子

サンフランシスコに到着し、空港の外に足を踏み出した途端、カラッとした空気が私を包みまわりました。目に入ってくるものは、雄大な自然、きれいな街並みなど、日本では見られないものばかり。標識も店の看板ももちろん英語、聞こえてくる言葉もネイティブな英語ばかり。私はそんな光景を見て「本当にアメリカに来たんだ」と思い、心を奪われました。

アメリカ人はとてもフレンドリーで、大学寮での食事のときに前の席に座っていた女の人が「Where are you from?」とか「How long have you been here?」など話しかけてきました。「I'm from Japan. I've been here for three days」などと答えると「Oh Welcome to the US!」と言ってくれ、自然と緊張が解けて楽しい気持ちになりました。見知らぬ人に気軽に話しかけてくれるアメリカ人はとても気さくで、親切な人が多いと感じました。

英語で話す時、現地のアメリカ人のネイティブな英語に少し戸惑いつつも、知っている単語などを使って、楽しくコミュニケーションを図ることができました。

今回のアメリカ研修で最も心に残ったのは、ホームステイです。現地の生活を実際に体験することで、日本との違いや現地の良さをたくさん発見しました。ホストファミリーのKinaraさんとJavien君、そしてKellyさんとRobさん。いろいろな所へ連れていってくれ、とても楽しい3日間でした。皆とても優しく、広い心を持っており、サクラメントを離れるときは、思わず涙がこみ上げてきました。

サクラメントは、私の「Another Hometown」(もう一つの故郷)であり、自分の心と視点を大きく変えてくれた、特別な場所です。最高の5日間をありがとうございました。

出逢えた全ての人たちに感謝し、アメリカ研修で学んだことをこれからの生活に生かしていくことと思います。I love Sacramento!



派遣生と一緒に

人生での大きな経験

愛媛大学教育学部附属中学校 佐藤 周平

生まれて初めてのアメリカ行きの飛行機の中へはくは、「これからどんなことが待っているのか」「自分がどんな風に成長できるのか」という不安と「アメリカの土地や空気に早く触れたい」という楽しみが混ざって、胸が締めつけられるような感じがした。



お世話になったホストファミリー

この研修で一番楽しかったのは、ホームステイの第一歩となる大きなイベント、ウェルカムパーティーです。ホストファミリーと初めて顔を合わせたときは、どうしようもなく緊張していました。嬉しむらぶらぶらと緊張が解けて、ささいなことで向こうから話しかけてくださるようになりました。それにより緊張が徐々に解けて、それ以降、積極的にコミュニケーションすることができました。最初は、英語がとても苦手でしたが、今度の研修で気付いたことは、何か伝えたいことがあるなら、熱を込めてジェスチャーなどを使ったら分かるということでした。

そして待ちに待ったホームステイが始まると、アメリカの人の気さくな人間性を肌で感じました。ホームステイ中に、ステイ先のお父さんからこんな興味深い話を聞きました。「人が何かやり始めた時、日本人は真似していき、アメリカ人は違うことを始める。そんな行動の違いを聞いて、他の国はどうなっているのだろうと様々な世界に興味を湧き、世界は広いと実感しました。」このように、今回のアメリカの研修で、自分の人生の糧となる大きな学びを感じて来ました。本当に、行くのと行かないのでは大違いです。本当に最高の研修でした。

このアメリカ研修で初めて海外に行きました。そこは飛行機で約十時間の場所にあるサンフランシスコです。空港の外に出た瞬間から、道路や看板、建物などから「あつ、もう海外にいるんだ。」と実感しました。

DON'T BE AFRAID TO SPEAK. LET'S TALK A LOT!

新田青雲中等教育学校 重見 成胤

アメリカ(サクラメント)に行つて驚いたことは、まず夏に定番の蚊や蟬などがいないため、静かです。

「自分がどんな風に成長できるのか」という不安と「アメリカの土地や空気に早く触れたい」という楽しみが混ざって、胸が締めつけられるような感じがした。

のんびり出来ることです。そして、何よりも街はすごく賑やかで、アメリカの人達もみんな友好的で親しみやすかったです。ホームステイでは、ホストファミリーのママさんがギターを片手にアメリカで有名な歌を沢山歌ってくれました。プロだったので凄く上手かったです。次の日の朝、ベットの散歩の途中に道端の木に色んな実が生っていたのでそれらをかじりながら散歩しました。

その後、ホストファミリーの幼稚園に行きました。そこは同じ年の男の子と弟さんがいてその子達と一緒にプールで遊びました。最初はお互いあまり喋らなかつたけれど、自分から興味やゲームの話をしてみたら、そこから話がどんどんと広がって、結構盛り上がり、ちょっとずつではありますが、沢山話せるようになりました。もしもあの時、自分から話しかけていなかったら盛り上がりたかたはなかったかと思えます。本当に外国の方と沢山会話出来た事とても嬉しく思います。勇気を出して、ちよとした話でもいいので何か話してみようと思えば、外国の方とも前より気軽に会話出来るようになりました。ホームステイの家族と別れる時は本当に寂しくなり、もうホームステイの期間が長かつたらいいのと思いました。

これらの経験も何らかの形で将来に生かしていきたいと思えます。今回のアメリカ研修で世話になった方々に、こういう貴重な経験をさせていただいたことを感謝します。本当にありがとうございました。



My friends

夢への第一歩！言葉の壁を乗り越えよう

松山市立勝山中学校 清家 悠雅

サンフランシスコ空港に到着した時、「憧れのアメリカに会いに来たんだ!」「いよいよアメリカの十日間が始まるんだ!」という多少の不安と大きな楽しみが次第に高まってきました。

僕が今回の派遣に応募した理由は大きく二つあります。一つ目は「日本とアメリカの文化、生活習慣、気候などの違いを肌で感じ学ぶこと」



ホストファミリーとその友達

二つ目は「外国人の方々と積極的にコミュニケーションをとり、英会話能力を高める」ことです。

最も心に残っていることは、ホームステイです。さあ、夢への第一歩が始まるぞという楽しさと同時に、言いたいことが伝わるのかなという不安もありました。ウェルカムパーティーの際にホストファミリーとお会いし、僕がこれまでに学んだ最大限の英会話で接したら、満面の笑みで「うなずいてくれ、言いたいことが伝わっているんだ!」という安心感、自信が湧いてきました。これから、後悔しないよう、アメリカの文化などを学ぶぞという強い決意に満ち溢れました。

ホームステイ中は、ホストファミリーとその友人の方々と一緒にショッピングや遊園地などへ行ったり、僕の大好きなバスケットボール観戦に加えて、実際にプレイするなど、様々な文化に触れることができました。場面、場面で言葉の壁はいくつもありませんでしたが、伝わらない時は英単語のみ、ジェスチャーを使うなど、できる限り自分で伝えることで自信へとつながりました。わずか三日間でしたが、ホストファミリーのことは本当の家族のように感じ、「生忘れ」はありませぬ。

サクラメントでは、市庁舎や州議事堂を訪問し、議場も見学できたなど、書きたいことはたくさんありますが、この十日間で、日本に居ることができない、アメリカに行かなければいけない、僕のこれまでの価値観を変えてしまうような貴重な体験をすることができました。

今回の派遣で得られた貴重な経験を、これからの国際交流活動、そして僕自身の将来にも生かしていきたいと思えます。

初めへ向くアメリカ派遣

松山市立久米中学校 竹原 玄騎

僕は今まで海外に行つたことはなく、長時間の

フライドや英語が飛び交っている生活、外貨の使用や自分自身で身の回りのことを管理することなど、すべて初めて体験することばかりでした。

出発前、派遣の目標として、「積極的に現地の人と交流し、英語力を養う」を挙げました。そのため、事前に会話したい内容や質問したい事柄などの英語での言い方がある程度は準備していました。日本を離れ、飛行機に乗った時から英語での生活が始まりました。CAさんにオレンジジュースを頼んだら、水が出てきました。またサンフランシスコ空港に着いた途端、英語が飛び交い、あまりにも会話が進まずに全く聞き取れませんでした。その時、不安になり、フレンドリーに救われ、だんだん積極的に英語を話せるようになりました。この十日間の経験を第一歩とし、今後は国際交流活動にも積極的に参加したいと思えます。

今回、派遣先や事前研修でお世話になった先生方、スタッフの皆さん、快く送り出してくれた学校の先生方や部活動の皆さん、家族の感謝の気持ちを忘れず、日々何事にも頑張っていきたいと思えます。



WELCOME PARTYにて

忘れられない十日間

愛媛県立松山西中等教育学校 永井 暁音

初めての飛行機。初めての海外。そうして着いたアメリカ。生忘れられないであろう最高の十日間は毎日が始めてでもとても貴重なものでした。アメリカに着き、あちらこちらから聞こえてくる英語にのまれながらも、単語だけでも聞き取ろうと努力しました。そんな中、一番大変だったのは、自由行動で友達と二人で買い物をした時です。服を買おうとレジに持って行きました。レジで先に値段を確認していたものの、プライスタウンで安く買ったので、レジに書いていた値段と違う額を店員さんに言われ、私も友達も混乱してしまいました。そのうえ、店員さんは私たちに容赦なく英語を話すので、もう



ゴールデンゲート・ブリッジを背景に

訳が分からなくなってしまうました。なんと英語が伝わり、やつのことでも買った服は思い出の一品になりました。この出来事を思い出して、ホテルに帰った時にコインの確認をしたので、次の自由時間の時からコインも上手に使えるようになりました。

今回の派遣で英語がより好きになり、英語力をより高めました。いつかまた、レベルアップしてアメリカの地を歩きたいです。こんなに最高な十日間を過ごせたこと、事前研修から支えてくださった方々に感謝し、これからの自分の国際交流に生かしていこうと思います。本当にありがとうございます。

★かけがえのない十日間★

愛媛大学教育学部附属中学校 中村 優里

初の海外でアメリカに行けたことがすごく良かったと思います。普段行けない州議事堂や市庁舎、ホストファミリーとの思い出が詰まっているホームステイ、歩いてみたゴールデンゲートブリッジ、ヤギとふれあつたハレイファームなど、たくさんの経験をすることができました。

この派遣で特に印象に残ったのは、ホームステイです。「積極的に」と思っていたけれど、初めて会ったときは緊張してしまい、なかなかしゃべれませんでした。本格的にホームステイが始まると、全部英語で聞き取れることが少なくて困り



ホストファミリー

ましたが、温かくホストファミリーが迎え入れてくれて、とても嬉しかったです。一緒にいる時間が多くなるにつれ、英語も聞き取れてきて、自分からコミュニケーションをとることができました。このホームステイで私が学んだことは、いろんな方法を通して物事をとらえることで、理解出来なかったことも分かるようになるんだということです。私にとってこの十日間はかけがえのないものになりました。日本とは全く違う考え方があって、これこそが今の自分に必要なんじゃないかなどこの派遣を通して思いました。

今回の十日間のサクラメント派遣の中では、たくさんの発見がありました。日本とアメリカの文化の違い、コミュニケーションを取る上で大切なことなど、気付いたことは本当にいろいろありましたが、その中でも、何事も恐れずに挑戦してみることが最も大切だと感じました。憧れていたアメリカ、どこも英語であふれている、日本とは違う点一つ一つに興味が湧きました。その中でも、ホームステイは私にとっても心に残る体験となりました。特にホストファミリーとアメリカの高校生の人たちと一緒に行ったショッピングモールでは、私たちが年齢の近い現地の人たちと英語を通していろいろな交流ができました。最初は、私の英語が通じることが不安でしたが、とにかくトライしてみようという気持ちで話しかけてみました。そんな私のつたない英語でもアメリカの高校生の人たちは二つ二つ丁寧に答えてくれました。私は、自分の英語が通じたこと、きちんと会話が出来たことにも感動しました。単語をつなげただけの簡単な英語でも、一緒に話したいという気持ちが伝われば、それがコミュニケーションをとるための大切な一歩になるということに気付くことができました。

★アメリカのスケールの大きさと日本の細やかさ★

愛媛県立松山西中等教育学校 久野 莉実



ホストファミリーとともに

初めてアメリカの地に立った時、ついに憧れのアメリカだ！と、とても興奮したのを今でも覚えています。飛行機を降りると、そこは全てが英語の世界でした。初めて目にしたアメリカの景色は日本と全く違っていて輝いて見えました。そこから感動いっぱいのアメリカ滞在が始まりました。

私がまずアメリカに行つて驚いたことは、スケールの大きさです。アメリカのものはほとんどが日本のものより大きいです。例えば道路の大きさは、広くて、車線が多くて、まっすぐな道が多かったです。ホストファミリーと一緒に買ったスーパーマーケットは、どれも見たことがないぐらいの巨大な商品があふれていました。また、アメリカのスケールの大きさに驚くと同時に、様々な人種の人たちが町を歩き交っていることに気がきました。肌の色に関係なく、お互いを認め合っていると感じました。

私はアメリカ研修を通して、日本の良さも再発見することが出来ました。それは日本の細やかさです。例えば、お菓子の一つをとっても、包装紙がきれいだたり、陳列が整っていたり、今まで当たり前だと思っていた事が当たり前ではありませんでした。日本人の気遣いがあつたからこそ、当たり前だったのだとこの研修で気付くことが出来ました。

この十日間は、私の宝物です。この派遣を支えてくださったすべての人に対して、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

★何事もおそれずIn America.★

新田青雲中等教育学校 福田 紗也

今回の十日間のサクラメント派遣の中では、たくさんの発見がありました。日本とアメリカの文化の違い、コミュニケーションを取る上で大切なことなど、気付いたことは本当にいろいろありましたが、その中でも、何事も恐れずに挑戦してみることが最も大切だと感じました。憧れていたアメリカ、どこも英語であふれている、日本とは違う点一つ一つに興味が湧きました。その中でも、ホームステイは私にとっても心に残る体験となりました。特にホストファミリーとアメリカの高校生の人たちと一緒に行ったショッピングモールでは、私たちが年齢の近い現地の人たちと英語を通していろいろな交流ができました。最初は、私の英語が通じることが不安でしたが、とにかくトライしてみようという気持ちで話しかけてみました。そんな私のつたない英語でもアメリカの高校生の人たちは二つ二つ丁寧に答えてくれました。私は、自分の英語が通じたこと、きちんと会話が出来たことにも感動しました。単語をつなげただけの簡単な英語でも、一緒に話したいという気持ちが伝われば、それがコミュニケーションをとるための大切な一歩になるということに気付くことができました。

その中でも特に心に残っているのは、ホームステイです。十日間の中で唯一みんなと離れて自分だけで行動したからです。ホームステイは緊張して、思うように話せませんでした。日が経つにつれて、少しずつ話せるようになったので嬉しかったです。お別れするときには寂しかったけれど、この経験を生かして、これからは日本に来る外国の観光客などにもっと英語を使つて、積極的に話したいです。そのために、今後もしっかり勉強し、多くの言葉を覚え、未来へつなげていきたいです。

このようにアメリカからたくさんのお話を学ぶことができて本当によかったです。まだ分からないこともたくさんありますが、この派遣で教えてもらったことを胸に、これからもたくさん派遣のために支えてくれた家族や引率してくださった方々に感謝しています。

「ここがアメリカカー。」サンフランシスコの空港を出ると、日本と色々な違いに驚かされた。まずびっくりしたのは、気候だった。切じめつとしておらず、さらさらとした感じで全く汗をかかなかった。そして長袖一枚ではたりなく、寒い寒かった。次に驚いたのは、スケールの大きさだった。道路や物、全てが大きく、物価が安い。日本とは、比べものにならないくらい大きかった。方で治安の悪さにも驚いた。どこへ行くにも二三人以上で行動した。通行人にいきなり叫ばれたこともあった。改めて日本がいい国なんだと分かった。

私はアメリカに行つて多くの事を学んだ。そこから、他国の文化の違い、人それぞれの考え方の違いが分かった。アメリカ、日本にはそれぞれ違う良いところがある。その反面アメリカ、日本ともに改善すべきところもあった。そのような文化の違いを体験できて、本当に良かった。この経験を、これからの生活の中で役立てていこうと思う。そして、広い視野を持つて様々な人の役に立てる人になりたいと思った。

「ここがアメリカカー。」サンフランシスコの空港を出ると、日本と色々な違いに驚かされた。まずびっくりしたのは、気候だった。切じめつとしておらず、さらさらとした感じで全く汗をかかなかった。そして長袖一枚ではたりなく、寒い寒かった。次に驚いたのは、スケールの大きさだった。道路や物、全てが大きく、物価が安い。日本とは、比べものにならないくらい大きかった。方で治安の悪さにも驚いた。どこへ行くにも二三人以上で行動した。通行人にいきなり叫ばれたこともあった。改めて日本がいい国なんだと分かった。

★人生、初のアメリカ★

松山市立内宮中学校 光宗 花音

私は、初め海外に行きたくなりませんでした。なぜなら、事件や事故に巻き込まれないか



ショッピングモールにて現地の高校生と一緒に



Hard Rock Cafe

心配だったからです。しかし、今回の海外派遣に参加して私の世界観は大きく動きました。「アメリカは、私を変えてくれる。」と信じ、私の海外派遣は始まりました。英語が苦手だったので、周りの人がみんな英語を使っているのを見て、ついていけるか心配でした。しかし、三日もすれば少しずつアメリカの環境に慣れていき、簡単な文が話せるようになりました。また、同じ派遣生とも仲良くなり、アメリカにいる毎日が楽しくなりました。

その中でも特に心に残っているのは、ホームステイです。十日間の中で唯一みんなと離れて自分だけで行動したからです。ホームステイは緊張して、思うように話せませんでした。日が経つにつれて、少しずつ話せるようになったので嬉しかったです。お別れするときには寂しかったけれど、この経験を生かして、これからは日本に来る外国の観光客などにもっと英語を使つて、積極的に話したいです。そのために、今後もしっかり勉強し、多くの言葉を覚え、未来へつなげていきたいです。

このようにアメリカからたくさんのお話を学ぶことができて本当によかったです。まだ分からないこともたくさんありますが、この派遣で教えてもらったことを胸に、これからもたくさん派遣のために支えてくれた家族や引率してくださった方々に感謝しています。

「ここがアメリカカー。」サンフランシスコの空港を出ると、日本と色々な違いに驚かされた。まずびっくりしたのは、気候だった。切じめつとしておらず、さらさらとした感じで全く汗をかかなかった。そして長袖一枚ではたりなく、寒い寒かった。次に驚いたのは、スケールの大きさだった。道路や物、全てが大きく、物価が安い。日本とは、比べものにならないくらい大きかった。方で治安の悪さにも驚いた。どこへ行くにも二三人以上で行動した。通行人にいきなり叫ばれたこともあった。改めて日本がいい国なんだと分かった。

私はアメリカに行つて多くの事を学んだ。そこから、他国の文化の違い、人それぞれの考え方の違いが分かった。アメリカ、日本にはそれぞれ違う良いところがある。その反面アメリカ、日本ともに改善すべきところもあった。そのような文化の違いを体験できて、本当に良かった。この経験を、これからの生活の中で役立てていこうと思う。そして、広い視野を持つて様々な人の役に立てる人になりたいと思った。

「ここがアメリカカー。」サンフランシスコの空港を出ると、日本と色々な違いに驚かされた。まずびっくりしたのは、気候だった。切じめつとしておらず、さらさらとした感じで全く汗をかかなかった。そして長袖一枚ではたりなく、寒い寒かった。次に驚いたのは、スケールの大きさだった。道路や物、全てが大きく、物価が安い。日本とは、比べものにならないくらい大きかった。方で治安の悪さにも驚いた。どこへ行くにも二三人以上で行動した。通行人にいきなり叫ばれたこともあった。改めて日本がいい国なんだと分かった。

私は、初め海外に行きたくなりませんでした。なぜなら、事件や事故に巻き込まれないか



Hard Rock Cafeの前で

今回の派遣では、この他にも「まつやま中学生海外派遣」でしかできないたくさん経験させていただきました。この派遣に関わった全ての方に感謝しています。ありがとうございます。

「ここがアメリカカー。」サンフランシスコの空港を出ると、日本と色々な違いに驚かされた。まずびっくりしたのは、気候だった。切じめつとしておらず、さらさらとした感じで全く汗をかかなかった。そして長袖一枚ではたりなく、寒い寒かった。次に驚いたのは、スケールの大きさだった。道路や物、全てが大きく、物価が安い。日本とは、比べものにならないくらい大きかった。方で治安の悪さにも驚いた。どこへ行くにも二三人以上で行動した。通行人にいきなり叫ばれたこともあった。改めて日本がいい国なんだと分かった。

私はアメリカに行つて多くの事を学んだ。そこから、他国の文化の違い、人それぞれの考え方の違いが分かった。アメリカ、日本にはそれぞれ違う良いところがある。その反面アメリカ、日本ともに改善すべきところもあった。そのような文化の違いを体験できて、本当に良かった。この経験を、これからの生活の中で役立てていこうと思う。そして、広い視野を持つて様々な人の役に立てる人になりたいと思った。

「ここがアメリカカー。」サンフランシスコの空港を出ると、日本と色々な違いに驚かされた。まずびっくりしたのは、気候だった。切じめつとしておらず、さらさらとした感じで全く汗をかかなかった。そして長袖一枚ではたりなく、寒い寒かった。次に驚いたのは、スケールの大きさだった。道路や物、全てが大きく、物価が安い。日本とは、比べものにならないくらい大きかった。方で治安の悪さにも驚いた。どこへ行くにも二三人以上で行動した。通行人にいきなり叫ばれたこともあった。改めて日本がいい国なんだと分かった。

私はアメリカに行つて多くの事を学んだ。そこから、他国の文化の違い、人それぞれの考え方の違いが分かった。アメリカ、日本にはそれぞれ違う良いところがある。その反面アメリカ、日本ともに改善すべきところもあった。そのような文化の違いを体験できて、本当に良かった。この経験を、これからの生活の中で役立てていこうと思う。そして、広い視野を持つて様々な人の役に立てる人になりたいと思った。

私は、初め海外に行きたくなりませんでした。なぜなら、事件や事故に巻き込まれないか

私は、初め海外に行きたくなりませんでした。なぜなら、事件や事故に巻き込まれないか



ホストファミリーと友達

★最高の十日間★

松山市立拓南中学校 渡邊 愛奈

アメリカに着いたとき、私にはあまりアメリカにきたという実感がありませんでした。ですがバスで移動しているときにアメリカの街並みを実際に見ることで、本当にアメリカにきたんだという実感が湧いてきました。

ホームステイのときに、ホストファミリーにGYPSYというミュージカルに連れて行ってもらいました。英語が早くよく聞き取れない部分もあつたけれど、ダンスやセリフの言い方や場面展開を見ているうちに、内容や人物の気持ちなどが徐々に読み取れるようになりました。本場のミュージカルは、日本よりもスケールが大きくて感動しました。私が印象に残った場面は、黒と白の照明が交互に点灯して、バラバラ漫画のように子どもと大人が入り替わるところでした。小道具も本格的でした。また、ミュージカルの中に沢山のアメリカンジョークが入っていて、観客の方たちは笑いに包まれていました。しかし、私はそのジョークが分からなかったため、より英語を頑張りたいと思います。また、買い物をするときに、お店員さんがコインの使い方を教えてくれたり、おまけでキャンディーをくれたりと、優しい方たちと出会う事ができました。

研修中のすべてが日本では体験することができないことばかりでした。この十日間は私の人生で忘れることのできない十日間となりました。



ミュージカル

アメリカ班

思い出ランキング

びっくりしたこと ランキング

1位 物・食べ物の大きさ

2位 朝晩の気温差・涼しさ・気候の違い

3位 アメリカ人のフレンドリーさ



1位 ハンバーガー

2位 ピザ

3位 お肉

(ステーキ・ローストビーフ)

美味しかった食べ物 ランキング



1位 アメリカ人の明るさ・フレンドリーさ・優しさ

2位 景色・街並みの綺麗さ

3位 日本との道路の違い

感動したこと ランキング



盆踊りに参加してくれました

アメリカで気付いた

日本のいいところ ランキング

1位 トイレがきれい

2位 ご飯のおいしさ

3位 治安がいい



【事前研修での出会い】 国際交流協会の皆さんや講師の皆様のおかげがあったからこそ、充実した研修ができました。ありがとうございました。生徒たちは、有意義な十日間を終え、個々の課題を達成し、たくましい姿になったと感じます。素晴らしい機会を与えていただいたことに感謝いたします。

【アメリカの現地での出会い】 サクラメント姉妹都市協会は、ボランティアの人たちの会費や運営によって成り立っているそうです。高齢化も進み、後継者を探すのも苦労していると話されていました。そんな中、今回の事業のため誠心誠意のおもてなしには、感謝の気持ちでいっぱいでした。お別れの時、ホストファミリーからは、「とてもいい経験ができました。ありがとうございました。」と、姉妹都市協会の人からは、「次にサクラメントを訪れるときは、たくさん生徒の引率で来てください。楽しみにしています。」と涙ながらのお別れをしました。一人でも多くの生徒が成長し、再度サクラメントを訪れてほしいと思います。

期待と不安のアメリカ研修も、無事全日程を終了しました。事前研修サクラメントやサンフランシスコでの十日間の研修、事後研修を終え、生徒たちは素敵な笑顔でいっぱいでした。日々、成長を感じることができた。毎日を送ることができたと思います。研修を充実させるため、たくさんの人たちにお世話になりました。



サクラメント姉妹都市の標示の前にて



引率の先生方

たくさんの 出会いに感謝

団長 松山市立久谷中学校
校長 大野 和憲

ンシスコの文化や自然・歴史等に感動をしながら、生活を共にすることができました。山火事によってヨセミテの研修ができなかったのは残念ですが、いつも青空のサクラメントの空が火災の影響で霞のかかった空になり、自然の恐ろしさを経験しました。生徒たちには、今回のアメリカでの研修をチャンスと感じ、将来ともに活躍できる仲間になってほしいと思います。今後も友情深め、切磋琢磨しながら素晴らしい未来に向かって進んで行ってほしいと願っています。

アメリカ班のできる最大のお礼は、今回派遣された生徒たちが将来を担う国際人として、一人でも多く先頭に立ち、活躍することです。

出会いに感謝

松山市立中島中学校
教諭 三原 慶彦

今夏、派遣生と共にアメリカを訪ねました。生徒は、アメリカ滞在を通じて、ずいぶんたくましくなっていました。生徒を成長させてくれたのは、「人々との出会い」であると思います。



サンフランシスコ、金門橋前で

サクラメントで私たちが温かく出迎えてくださったのは、姉妹都市協会の皆様である。多くは日系の方で、現地に根を下ろし活躍していらっしゃる。そんな姿に、あこがれとともに、ボランティアで私たちの支援をしてくださるその熱い心に、感動した生徒は多いだろう。私も、心から感謝している。

ホームステイ先では、素敵な家族との出会いがあったのだろう。三泊四日を共にしたホストファミリーとの別れの朝、サクラメントを発つ間際まで別れを惜しむその姿に、生徒とホストファミリーとの心のつながりを感じた。生徒は、英語では十分に思いを伝えられなかったと思う。しかし、互いを理解しようとした、その心と心の交流は、言語に勝る本当の国際交流であると思う。別れの朝の感動と涙は、心が通じた証である。

サンフランシスコのガイドさんや通訳さんも輝いていた。日本を出て、アメリカで快活に仕事をされていた。その姿に、将来の自

分を重ねた生徒もいるかもしれない。ここに述べたのは、アメリカで出会った方々の一部であるが、生徒は、出会いを重ねる毎に、確実に成長した。「国際人」に近づいた。今夏の感動・出会いを忘れず、さらに努力を重ね、松山の、そして日本の国際化を担う存在になってほしいと思う。

桜の花が咲くころに

松山市教育研修センター
指導主事 河野 理佳

二度目の海外派遣引率の機会をいただいたことは予想外のことであったが、かつてお世話になったサクラメント姉妹都市協会の方々元気なお姿を拝見できたこと、また研修を通じて、多くの新たな出会いを得ることができたことに深く感謝している。

前回の派遣時と大きく変わったこと。それは、今、日本が外国語教育の大きな変革期の最中にあるということだ。外国語教育への関心の高まりとともに、様々な情報や方法論がふれる中、今回の派遣を通じて感じたのは、「そもそも私たちはなぜ外国語を学ぶのか」という極めてシンプルな問いだった。そして、その答えを、お世話になったホストファミリーに精いっぱい感謝の気持ちを伝える派遣生の姿や、姉妹都市協会の方々の本事業を支える献身的なサポートの中に見出すことができた。そこでのやりとりは、けっして流暢ではなかったかもしれない。しかし、そこにあったのは紛れもなく「生きた言葉」だった。

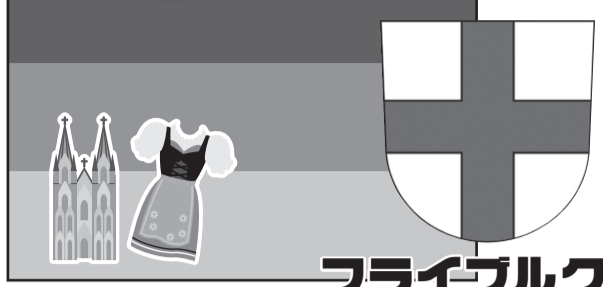
異文化交流と聞くと、ついつい異なるものばかりに目が向きがちになる。しかし、派遣中の様々な場面で、出会う人々の優しさに触れた二十名の派遣生は、国が違っても、等しく大切なものがたくさんあることも感じたのではないと思う。

派遣中のある日、市内にある公園に連れて行っていただいた。今は、何もない芝生の地には、二百本の桜の植樹計画があると聞く。「松山通り」と名付けられた遊歩道から、サクラメントリバーを背に満開の桜を見られる日はいつだろう。派遣生がいつの日か、より成長した姿でその地に立ち、二〇一八年の夏を振り返ってうれ



Matsui Waterfront Park

ドイツ班



フライブルク市

大好きな街、 フライブルク

松山市立勝山中学校 安部 美咲



ホストファミリーと湖で♡

小さい頃からの憧れであった海外渡航を初めて叶えられたこの派遣は、私にとってかけがえない最高の経験になりました。その中で、最も印象に残っていることが二つあります。一つ目は、ホームステイです。ホストファミリーはとても親切で、いつも明るく接してくれました。ティティ湖を遊覧船で周ったり、アーチェリーをしたり、いろんな体験を一緒にすることで、少しずつお互いの距離が縮まっていきました。最初は不安だった会話も、思い切っただけで話すとすっかり聞いてくれて、少し苦労した分、伝わった時のうれしさは大きかったです。失敗を恐れないことの大切さに、改めて気付きました。また、ホストファミリーは常にジェスチャーを使いながら話してくれたので聞き取りやすく、私も見習おうと思いました。二つ目は、BBQパーティーで日本の文化を伝えること

<ドイツ班日程>

第1日	7月21日(土)	松山発 フランクフルト着後、 フライブルクへ移動
第2日	7月22日(日)	ホストファミリーと過ごす
第3日	7月23日(月)	市役所表敬訪問、市内見学 エコステーションで環境体験 BBQパーティー
第4日	7月24日(火)	ゲーテ校訪問、朝市視察 フライブルク大学見学
第5日	7月25日(水)	ヴァルトハウス ドイツ語体験学校
第6日	7月26日(木)	スイスへ移動 国際連合ヨーロッパ本部
第7日	7月27日(金)	エモツソングダム ジュネーブ市内見学
第8日	7月28日(土)	欧州原子核研究機構 パテックフィリップ時計博物館
第9日	7月29日(日)	フランクフルト発
第10日	7月30日(月)	松山着

です。私は四歳から習っているそろばんを披露しました。意外にも多くの人に興味を持ってもらうことができ、中には感動してくれた大人もいました。この経験を、将来活かしたいと思います。

フライブルクは街並みがとてもかわいく、お店で出会う人や道ですれ違う人も親切で素敵な人ばかりでした。これから語学に励み、また必ず、大好きなフライブルクを訪れたいです。今回このような素晴らしい経験をさせていただいた感謝を忘れず、今後も松山市の国際交流の活性化に努めていけるようにがんばります。

第二回のドイツ班

松山市立三津浜中学校 伊藤 志珠

緊張や不安、期待などさまざまな思いを胸に、私はドイツへの一歩を踏み出しました。初めてのヨーロッパ、見るものすべてが新鮮で輝いていて、自分が家で観ている映画の世界に入り込んだようでした。

ホストファミリーと過ごした5日間はとても充実していました。1日目は緊張しているせいか、なかなか積極的にコミュニケーションをとることができず、ホストファミリーが質問したことにYesとNoでしか答えることができませんでした。

しかし、2日目には知っている単語やジェスチャーを使い、コミュニケーションをとることができました。日本から持ってきたお土産を喜んでくれ、また一緒にドイツのゲームをするなど異国の文化や遊びに触れることによって会話力が弾きました。また、事前研修で習ったドイツ語のあいさつや自己紹介を実践してみると、ホストファミリーはとても喜んで返事を返してくれました。言葉が通じたことに嬉しさと感動をおぼえました。



大好きなホストファミリーと

今回の派遣で失敗を恐れず、挑戦していくことがとても大事なことに改めて気づかされました。今後の学校生活にも生かしていきたいと考えています。それと同時に両親や安全に研修ができるようにサポートしてください。また先生方などへの感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。

ドイツ派遣を終え

済美平成中等教育学校 小田さくら

ドイツに着いた瞬間、町並みも人も言葉も見るものすべてが新鮮で、物語の世界に来たかのような感動を覚えました。

私がホームステイをしたStara家は、お父さん、お母さん、パートナーのAnna、姉妹のGretaとJenaの五人家族でした。初めて会った時、温かく迎えてくれたので、それまでの不安や緊張はすぐに消え去り、とてもワクワクしていました。ドイツ滞在二日目の日曜日の朝、家族全員と庭で朝食を食べました。言葉



大切な家族

の壁を感じながらも、Annaやお母さんが生懸命ジェスチャーを使って話してくれたので、私も積極的にホストファミリーと話そうとしました。Annaには6人の仲の良い友達がいる、一緒にミュージカルのビデオを見たり、サンセットを見たり、寿司パーティーをしたり、大人数だからこそ味わえる楽しみがありました。5日間、たくさんの人との絆が深まったと思います。ドイツでの経験はすべて、私の一生の宝物です。

来年は、Annaたちが日本に来るそうです。それまでもっと松山そして日本の事を勉強して、しっかりと伝えられるようにしたいです。ドイツでの貴重な体験をさせていただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。

ドイツの 思い出深い5日間

松山市立桑原中学校 小笠山 裕太

夜の明るさも違う、湿度も違う、家の大きさも違う、言語も違う、わかっただけで、何もかもが違う異国の地。海外に行くのが初めての僕には、すべてのことが新鮮でした。行きの飛行機の中で「大丈夫」と自分に言い聞かせ、それからバスに乗ってホームステイ



ホストファミリーの人たちと

先のヘリックのもとへ。この派遣でのほくの目標は、恥ずかしながら積極的に英語で話すこと、自分の中にある固定観念をなくし、もっとと物事を広い視野で見ようとするのでした。最初の日は、彼とどんなことについて話そうか迷いました。彼もサッカーが好きだという共通の趣味があったので、そのことについて話そうかと思いましたが、自分の英語力では簡単な質問しかできず、本当はもっといろいろなことが聞きたい、もっといろいろな話したい、と身をもって英語の必要性を痛感しました。2日目からはジェスチャーなども加えて、次第にヘリックたちとも話そうと、仲良くなることができました。行く前に聞いた話から、ドイツはスリが多くて、悪い人もたくさんいる危ないところというイメージももっていました。しかし、行ってみるとそんなことはなく、ドイツ人は優しく面白くて、ドイツをまた訪れたいと思いました。今回の経験から英語の大切さや、物事は自分の目で見ないとわからないということを知りました。この経験をもちに、これからはもっと英語を勉強し将来国際的に活躍できる人間になりたいです。

必要なのは...?

松山市立勝山中学校 木村 汐里



第二の家族♡

一通の合格通知から始まった10日間のドイツ研修。それは本当に夢のようで楽しいものでした。

飛行機から降りた瞬間日本とは違う何かを感じました。空気、景色、言葉など、見慣れないものはかりで、初めて外国に来たんだという実感がわきました。

「着きました」。浮かれている私はガイドさんの言葉ではと我にかえりました。ドイツに来て初めて私たちに会ったミッション、ホストファミリーとの対面です。私はもう一人の研修生と同じ家でした。「出来るだけ日本語を控える」そう約束していたにも関わらず、やはり

日本語に助けを求めてしまいました。しかし、日が経つにつれて自然に言葉に出てくるのは英語となりました。私のホストファミリーは私のカクトの英語に対して優しく接してくれました。英語をゆっくり喋らせてくれて聞き取りも出来るようになり、来年日本に来ることまで聞くことができました。最後の別れは辛かったけど、また会おうと約束をしたので最後ではないし、心で通じている家族だと私は思っています。

この研修で得られたことは、異国の地で、いくつもの壁があっても心は通じ合えるということ。たとえ言語が違っても、文化が違っても、私は乗り越えていけると思います。このことを胸に将来は世界で活躍する建築士になりたいです。Danke schön!

まじやま海外派遣に 参加して

松山東雲中学校 栗林 春

初めての団体での海外。初めてのヨーロッパ。私にとって、初めて尽くしたこの派遣では、海外の人たちと交流をする楽しさや難しさ、日本と異なる文化に親しむことの重要性を学ぶことも良い機会となりました。

姉妹都市であるフライブルク市は、環境にとってもやさしい市で、市内には電車や、リサイクルに関する施設が整備されていました。松山市もゴミの排出量が少ないなど、資源のリサイクルに努めていることは知っていましたが、黒い森での持続的、かつ社会的・経済的効果の説明や、エコステーションでの研修では、ドイツ人の環境に対する意識の高さに驚きました。

また、国際的に環境保護活動が広がっているのを感じ、私もその一員となつて少しずつでもできることをみつければいいなと思いました。

まずは、自分の視野を世界へと大きくして、この志を実行に移す輪を広げていきたいです。そして将来は、この派遣で自分が得た力を武器に、海外という大舞台で羽ばたける女性になりたいです。



ステイ先のカルラと一緒に

伝える喜び

松山市立雄新中学校 小網 溪斗

約13時間のフライトを終えてフランクフルトの空港に降り立つと、たくさんドイツ語が耳に入ってきました。初めての海外、憧れのドイツに来たのだと実感して、嬉しさと期待で胸がいっぱいになりました。同時に、ホストファミリーと言葉が通じると少し心配になりました。

ホームステイ2日目、ホストマザー、パートナーのアレクサンドラがフランスの街へ買い物に連れて行ってくれました。一緒に過ごす時間と共に、少しずつ打ち解けて話すことができました。知っている単語をつなげた片言の英語が、相手に伝わったときは、とても嬉しかったです。うまく話せなくても、ホストファミリーは、僕の話優しく聞いてくれました。伝えようとする気持ちと、わかり合いたいと思う気持ちがあれば、言葉の壁はあっても気持ちは通じると実感しました。温かい夕食を作ってくれてくれたこと、お揃いの財布を買ってくれたこと、カードゲームで遊んだこと、本当の家族のようでした。ホストファミリーとの最後のお別れの時、お礼をきちんと伝えることができてよかったです。僕にとってホームステイは、貴重な経験になりました。



ホストファミリーと別れる前日の夜

ドイツに行こま

新田青雲中等教育学校 河野 葵

「大人になってもなかなか行けないからドイツに行きたら？」という言葉をきっかけにドイツに行くことを決めました。最初、外国人の印象は強いというイメージだったので、外国に行く事を心配していました。しかし、ホス



ホストファミリーとの別れ

トファミリーと会い、言葉が通じないけれど、いろんな事を生懸命伝えようとしてくれた、私が伝えたい事を分かって努力してくれたこととで心配も吹き飛びました。私も、もつとがんばって伝えようと思いました。また、出かける時に、ホストファミリーのお母さんが、英語で「いつてらっしゃい」と言ってくれたのが、家族の一員になったようで、とてもうれしかったです。最後にアルバムをいただき、一生の宝物になりました。

私がドイツに行く中で一番楽しみにしていたのは国際連合ジュネーブ事務局です。世界の代表者が集まって、武器ではなく意見を出し合い、最もいい方法で解決する場所を見に行きたかったからです。中に入ると天井の装飾に圧倒されました。その装飾は、見る角度により色が鮮やかになります。いろんな角度から、物事を見られるというイメージしているという話を聞き、私もいろんな角度から見たい意見を取り入れられることのできる大人になりました。

肌で感じたヨーロッパの感動

松山市立椿中学校 田頭 一晟

約12時間のフライトを経て、機内から見えた青々とした森林の広がるドイツの美しい景色は、強い感動として記憶に残っています。空港に降り立った後、清々しい風が心地よく、日本と全く違う空気に、「とうとうドイツに来たんだー」と胸が高鳴りました。

フライブルク滞在中一番楽しかったのは、ホームステイ先のEmmaとその友達みんなでピザを作ったこと、トラムという路面電車に乗ってポリング場に行ったことです。その後、トラムの



ホストファミリーとの別れ際

チケットを洗濯してしまう失敗もありましたが、Emmaの家族も皆温かく、ゲームや食事を通して、どんどん打ち解けていくのを感じ、「フライブルクに来て良かった」と心から思いました。全てを相手に伝える、という難しさも感じる一方、自分の発した英語やドイツ語が相手に伝わる嬉しさは格別でした。

そして、一番興味があった国連ヨーロッパ本部の見学は、素晴らしい体験となりました。大会議場や理事会室、「生命の碧い星」という日本から寄贈された砥部焼の壺、「プロクンチェア」というモニュメントは、どれも平和を願う強いメッセージがあり、実際に自分の目で見て、厳かな空気を感ずることができ、とても感動しました。

フライブルクやジュネーブでの感動、緊張や驚き、失敗の体験は、本当に貴重なものとなりました。充実した研修の機会を与えていただき、ありがとうございます。

Danke schön!!

松山市立勝山中学校 高須 芽依

楽しみにしていたホームステイ。しかし、いざ始まるとなると人生最大級の不安と緊張で押しつぶされそうでした。

私は英語が大好きですが、実際に会話をするととなると、全然言葉が出てきませんでした。そんな私にホストファミリーは常に優しく接してくれました。わかりやすい英語を使い、私の下手な英語も理解しようとしてくれて、とても救われました。不安や緊張は段々なくなり慣れない英語を自分なりに一生懸命使ったたくさん会話することができました。私とパートナーのアンジーは、それぞれが好きという共通の趣味があり、Emmaの番組を見たり、音楽を聴いたり歌ったりして盛り上がりました。花火を見たこと、ポウリングをしたこと、夕日を見たこと、お寿司を食べたこと、トランプをしてみたこと、ショッピングをしたこと、全てがとても大切な思い出になりました。特に夕日を見たことが印象に残っています。高所から見るフライブルクの美しい街並みと沈んでいく



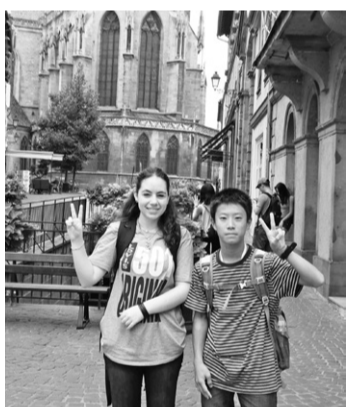
Angie との最後のディナー

夕日がとても神秘的でした。フライブルクの生活はたくさん刺激、新しい発見があり、とても充実していました。しかし、自分の英語力の低さを痛感させられた研修だったと思います。紙に書くだけの勉強ではないということを実感しました。また、伝えようとする意欲を持っていれば伝えられることもあるということがわかりました。これからもっと英語の勉強に力をいれていこうと思います。

かけがえのない経験

愛媛大学教育学部附属中学校 田中 宏汰

たくさんの期待と不安をかかえ、飛行機は羽田空港を飛び立ちました。初めての海外。初めてのホームステイ。ドイツに近づくと、期待よりも不安が大きくなっていき、ホストファミリーの笑顔を見ると、緊張がほぐれました。ドイツと日本。ホストファミリーと慣れない英語で、ジェスチャーを交えて、お互いの気持ちを理解しようとしていました。このとき、間違いを恐れず話そうとする勇気が大切だと感じました。そして、世界の共通言語は英語であることを実感しました。ホストマザーは、愛情を持って、自分の子どものように僕に接してくれました。日本食が恋しくなるのではと、御飯を用意してくれた日もありました。フランスのcolmardという、とても美しい村にも連れて行ってくれ一緒に買い物したり、食事をしたことが一番の思い出です。



Alexandra と colmar にて

研修を通して強く感じたことは、自分の気持ちを自分の言葉で伝えることの大切さです。お世話になったホストファミリーへ、もっと具体的に感謝の気持ちを伝えたいので、歯の乏しい語彙力では上手く伝えられず、歯がゆい思いをしました。この経験から、より層英語の習得に励もうと決意しました。

ドイツの経験とこれから

松山市立道後中学校 谷本 遼汰



ホストファミリーとの1枚

私の祖父もフライブルクに交換留学生として訪れたことがあります。祖母からその話を聞いてから私にとってドイツは一番の憧れの場所でした。初めての海外、見える光景や町並み全てが新鮮でとても感動しました。

ホストファミリーとの五日間

済美平成中等教育学校 西 萌花

最後に、家族をはじめとする派遣に携わってくださった全ての方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございます。



Nele との食事

ヨーロッパ学んだこと

松山市立鴨川中学校 野上 朔佳

初めてヨーロッパの土を踏み、見た景色や周囲から聞こえた言語、感じた空気など、全てが日本と違い、ドイツに来たことを実感しました。

今回の研修で感じたことは、「コミュニケーションの大切さ」です。
ホストファミリーはパートナーの「Hallo」以外あまり英語が話せず会話に苦労しました。そんな中、ホストファミリーは気に掛けて優しく接してくれました。6歳の弟も笑顔で場を和ませてくれ、ぎこちないながらも、ホストファミリー全員と楽しく話すことができました。特に、ドイツのお土産をホストファミリーからもらった時「Danke schön」とドイツ語で伝え、喜んでくれたことは忘れられない思い出です。上手に話せなくても、様々な手段を使い、話す努力をする必要を感じました。

また、現地に出会ったガイド・通訳の方々、スイスの国連事務所に勤めている人々が多種多様な言語を使い分け協力し合っているのを見て、円滑にコミュニケーションを図るのには、言語が有効な手段であることも実感しました。
今後は、コミュニケーション能力を高める為に、語学の学習に力を入れ、国際交流活動に参加し続けたいです。



ホストファミリーの皆と一緒に

海外派遣が私に与えた影響

松山東雲中学校 野中 瑚春

幼いころから、母がカナダへ留学したときの話を聞きながら、海外への思いを募らせてきました。今回のドイツ派遣を通して、疑問に思っていたことが次々と明らかになりました。

自動販売機が全くといっていいほどないこと、エコバックの持参は当たり前だということ、お店に入るときは挨拶するのが常識だということなど、たくさんの気付きがありました。

中でも私に影響を与えてくれたのは、黒い森での研修です。

持続可能な社会を実現するために、人々が様々な手を加えながら森を維持していることに感銘を受けました。
元々林業に興味はありましたが、森林を維持していくための手立てがわかりませんでした。今回の研修でそれがはっきり見えた気がします。

これからもさらに林業に関する勉強を続け、将来は今回お世話になったホストファミリーの元にお礼に行くとともに、黒い森のスタッフとして働きたいと思っています。



黒い森 - Black forest

史上最高の夏

松山市立久米中学校 村上 愛

フランクフルト空港に着いた瞬間、「ドイツに来たんだ」という実感が湧き、これからの研修に心躍らせた。しかし、フライブルクまでのバス移動3時間の間、パートナーと会う時間が近づくと緊張が高まってきました。初日はぎこちなかったけど、ホストファミリーが私を本当の家族のように受け入れ、接してくれたので翌日からは慣れていき、自分から話しかけて会話ができるようになりました。研修では、エコステーションでの環境学習や、ゲーテ校ライプルク大学の訪問、黒い森の散策など、1日の時間があったという間に過ぎ、本当に楽しかったです。ソーラン節を披露した時、



パートナーと

ゲーテ校の生徒やみんなが真似をして一緒に踊ってくれました。衣装に興味を持ち、プレゼントすると、とても喜んでくれた事が印象的でした。

私は、ドイツへ行くのも、ホームステイも、すべてが初めてで、日本とは違う生活がとても新鮮でした。たくさんの初めてが、私の人生の中の大きな宝物になりました。ホストファミリーと過ごした1日1日の内容が濃すぎて本当に充実した5日間でした。初日は不安でいっぱい、早くスイスに行きたいと思っていたけど、最終日には、日本ではなくドイツに戻りたいと思うくらいライプルクや、ホストファミリーの事が大好きになりました。

また、今回の研修で自分の英語力の無さを身にしみて感じました。
これからは英語もドイツ語も頑張っていって、かまた絶対にドイツに行きたいです！

自分から動くこと

愛媛大学教育学部附属中学校 毛利 美結



ホストファミリーと共に

「自分から動くこと」が私の今回の目標でした。楽しみと不安が入り混じった長いフライアウトの後ドイツに到着しました。耳に入る異国語、目に映る外国の人々や赤茶の建物が並ぶ風景、そして新鮮な空気を吸った後「ドイツに来たんだ」と実感しました。

パートナーのレアとその家族と出会った瞬間、ハグをされ、ドイツ人のフレンドリーさを感じました。レアの家に着くまで車の中で自己紹介をしました。家に着くとお母さんがピザを作ってくれて家族と一緒に食べました。プレゼントも用意してくれていてみんなで私を歓迎してくれたことが嬉しかったです。

翌日は家族とフランスのストラスブール大聖堂に行きました。入国審査もなく車で1時間ほどで異国に行けることに驚き、羨ましく思いました。展望台に上がると思わず叫びたくなるくらい美しい景色が広がっていました。私の家族や松山の話をする時には家族全員が

集まって真剣に話を聞いてくれました。レアの友人達にも会い、言葉に不安を抱きながらも自分から話しかけました。私がこの研修で学んだことは、自分の気持ちや感情を伝えようとする大切さです。単語やジェスチャーを駆使して伝えようとするとその気持ちは通じません。自分から動かないと何も始まりません。ライプルクは言葉に表せないくらい素敵な町でした。将来レアと家族と再会したいです。その時はもっと自分の気持ちを伝えることができるようになります！この海外派遣に関わってくれた皆様、本当にありがとうございます。

一生の宝物

愛媛大学教育学部附属中学校 森 一生

長時間のフライトを終え、飛行機から降りた瞬間、ついにドイツに来たんだ！と、嬉しさがこみ上げてきました。僕は海外に行くのが初めてだったので、目に映る風景、耳に入ってくる言葉、全てが未知の世界でした。今回の派遣での一番の思い出は、ホームステイでのホームステイでは、積極的にコミュニケーションをとろうと考えていました。しかし、いざホストファミリーと面会した時、たくさんの質問を受け、「pas」や「ro」などの簡単な返答しか出来ませんでした。それでも、パートナーのダビドは、僕に優しく接してくれました。僕も、知る限りの単語や身振り手振りを駆使して、何とか会話を成立させようと努力しました。すると、少しずつ想いが伝わるようになり、通じ合えるという素晴らしさを感じずにはいられません。ダビドとはたくさん時間を共にし、少しずつ絆が深まっていくのを感じました。その分、離れるのは悲しかったのですが、再会を約束し別れを告げました。この派遣を通して、「一歩踏み出すことの大



ホストファミリーとのディナー

切さ」を学びました。しっかりと自分の気持ちを伝えたり、失敗を恐れず挑戦したりすることで、交流の輪が広がりました。短い期間ではありましたが、ライプルクで大事なことを学ばせてもらい成長させていただきました。この派遣に関わってくれた皆様、本当にありがとうございます。人生に生かしていきます。

自分がドイツで感じた事

松山市立久米中学校 森實 悠太



イタリア料理店で最後の日の食事

ドイツでホストファミリーと過ごして印象的だったことは、僕の上手でない英語でも理解しようとしてくださったことです。派遣中、僕はつたない英語でも何とか交流しようとしてきました。しかし、「炭酸水じゃない水をください」と自分で考えた英語で言ったら、トイレに連れていかれたときはとても驚きました。

次にもっと驚いたのは、ドイツ人の切り替えの速さです。ドイツ人の「やる時」と「やらない時」の差は、世界で一番だと思いました。わかりやすい例として、スマートフォンやタブレットの使い方が挙げられます。ドイツ人のそれらの使用時間は、人によって違うと思いますが、日本人の約1.5倍ぐらいだと感じました。しかし、日本人とは違って、レストランなどで食事が出たらすぐにそれらの使用をやめます。この切り替えの速さがあるからこそ、ドイツがほかの欧米諸国に比べて資源が少ないのに、世界でも有数の工業国になったのだと思います。

今回の派遣で、ドイツのいいところも分かりましたが、改めて日本の良さも分かりました。また、コミュニケーションをとる時も、まっすぐ積極性がいいといけなことも分かりました。これらの経験を自分の将来に生かしていきたいです。

初めの海外で

松山市立城西中学校 山本 莉玖

長いフライトを終えて、着陸態勢に入った時、僕はドイツに来たのだと強く実感しました。小さい頃から海外には憧れがあり、ずっとならなりたいと思っていました。今回のドイツスイスへの海外派遣で夢を叶えることが出来ました。歩外に出ると目の前には肌や髪の色が違うあらゆる人が行き交っていて、日本ではほとんど見えない光景が広がりました。

ライプルクに着くと、ホストファミリーの方々が待っていてくれました。少し不安でしたが、ファミリーのユリアとお母さんは笑顔で僕たちを迎え、力強く握手をしてくれて、僕はドイツの人の優しさに感動しました。

ドイツでの滞在で、特に僕の心に残ったのは、ファミリーと一緒に歩いた森の中にあるアスレチックにいったことです。かなり本格的で高さもあったので、最初は少し怖かったですが、お父さんとユリアのお姉ちゃんが教えてくれて慣れてくると、大自然の中で思いっきり体を動かして楽しむことが出来ました。また、ライプルクは街並がとても綺麗で、日本とは違う景色をみるたびにヨーロッパにいることを実感しました。最初は相手のいっていることを聞き取るのがやっとで大変でしたが、日を追うごとに自分からも話しかけることが出来るようになりました。お別れの時はとても寂しかったけれど、お父さんとお母さんが「また、ライプルクに来たら泊まりにおいで」と言ってくれてすごく嬉しかったです。本当にいろいろなことをしてくれたホストファミリーには感謝しています。

今回の派遣では、実際に現地に行くことで出来る体験をたくさんすることが出来ました。特に、笑顔でのコミュニケーションや積極的な行動は国境をも越えることを学びました。これからは周りの人への感謝を忘れずに経験したことを多くの人に伝えていこうと思います。このような機会を与えていただき、ありがとうございます。



ホストファミリーと

ドイツ班 思い出ランキング

びっくりしたこと ランキング



この写真は夜8時頃のもの

1位 夜遅くまで明るい

2位 家が広い

3位 学校が自由、電車の踏切がない



1位 ソーセージ 2位 チーズ&パン 3位 プレッツェル

美味しかった食べ物 ランキング



ドイツのいいところ ランキング

1位 みんな親切&フレンドリー

2位 環境を大事にしている

3位 街並みが綺麗



ドイツで気付いた日本のいいところ ランキング

1位 安全なところ

2位 ご飯(日本食)が美味しい

3位 お水(軟水)が美味しい



ホストファミリーの生徒と一緒に

最後に、フライブルクで奥様の出産時期と重なる中、多大な配慮をいただいた大門さんを始め、この派遣事業においてお世話になった多くの皆様方に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

後半のスイスでは、ジュネーブにある国連事務所や欧州原子核研究機構(セルン)、パテックフィリップ時計博物館、また、モンブランが間近に見えるエモッソンドラム等を見学し、生徒からはどの見学地も「行って良かった」との感想が聞かれ、こういっただけではいられないほどの幸を感じることができました。

ホストファミリーとの歓迎パーティーでは、生徒からの発案によるソーラン節を披露したところ、会場の雰囲気は一気に盛り上がりを見せ、ホストファミリーの子どもたちも一緒に踊ってくれました。また、翌日訪問したゲート校でもソーラン節を披露したところ、お世話役のケンプター先生の闘志に火がついたのか、急遽30分のケンプター先生による合同サルサレッスンが始まるなど、なかなかムードで交流が行われました。

胸一杯のわくわく感と少しの緊張感をもった20名の生徒たちとともにフライブルクへ到着した私たちが満面の笑顔で迎えてくれたホストファミリーの皆様。おかげで生徒たちの緊張は風に吹き飛び、どの生徒も充実した5日間の海外生活が送れたことを何よりうれしく感じました。

団長 松山市立北条北中学校
校長 横江 茂樹

フライブルクとジュネーブでの充実した10日間

引率の先生方



6月の事前研修から生徒の多くが真剣な態度で前向きに研修に取り組んでいました。一方、引率教師である私にとっては初めてのヨーロッパ訪問であり、生徒以上に緊張と不安がありました。実際にフライブルクに降り立った私を美しいドイツの町並みと快適な気候が迎えてくれ、それまであった不安が不思議と消えていきました。社会科教師である私にとって研修中に訪れたドイツ、フランス、スイスの旧市街地やEU統合による国境検問所の廃止での移動の自由、西岸海洋性気候に実際に触れてとても感動しました。

そして訪問中に一番感動したのは、夕食会で生徒が披露した「ソーラン節」を通してフライブルクの生徒や大人との交流がいつに深まったことでした。生徒の多くが積極的に英語や片言のドイツ語とジェスチャーを駆使してコミュニケーションを図り、折り鶴やそらぼんなど各自が用意した日本文化を共に体験する姿がとても印象的でした。

10日間の研修を終えて多くの生徒が「日本に帰りたくない。」「将来ドイツにまた来たい。」と言っている姿が伺え、研修の成果があったと感じました。インターネットが普及した現代社会において改めて現地を訪れ、実際に交流することが国際理解の第一歩であると思う研修でした。

最後にこの研修に携わった人や国際交流センターの方々へ深く感謝申し上げます。



フランス アルザスにて

国際理解の重要性

松山市立三津浜中学校
教諭 中井 将基

地球人として

松山市立椿小学校
教諭 白形 利佳

私にとって初めてのドイツ・スイスでした。フライブルク旧市街の街並み、また人々の環境や森林を守ることに対する熱い思い、ホストファミリーや研修で出会った人々の熱意や温かい気持ち、それらに圧倒された日々でした。初日に不安げだった生徒たちの表情が、日ごとに生き生きとし、戸惑いながらも研修を深めていくうちに、自信をもって行動することができていたのを目の当たりにした毎日でした。

あっという間の10日間の研修は終わりましたが、ここから私たちのスタートだと思えます。今回の研修を通して感じたこと、学んだこと、考えたことなどをまずは、これからの松山市のために実行していかなければならないと思います。そして、もっと広い視野で、地球人として私たちが、特にこれからの時代を担っていく派遣生の皆さんには、何ができるのかを考えながら生活していくて欲しいと願っています。

最後に、この派遣事業を支えていただいた全ての方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



国連本部前モニュメント・ブロークンチェア

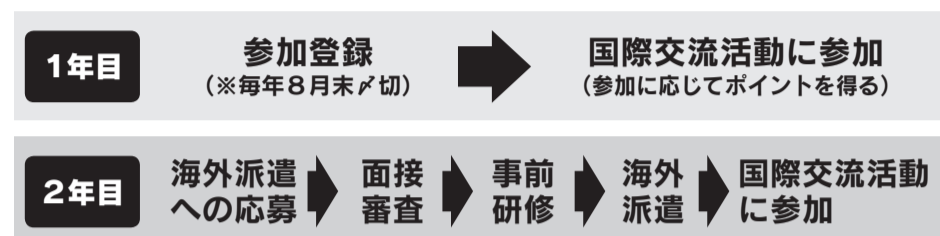
中学生チャレンジプロジェクトとは?



①プロジェクトに参加できるのは

- 松山市内に住んでいる、中学1年生、2年生
- 広く世界の国々について興味があり、地域での国際交流活動に参加する意欲のある人（派遣応募の資格を得るには、プロジェクトへの参加が必要です）

②プロジェクトの流れ



③ポイント対象となる国際交流活動例

- ・地球人まつり
- ・まつやま中学生海外派遣報告会
- ・世界一大きな授業(ユネスコ編)
- ・のぞいてみよう! 国際協力の世界
- ・外国語deおしゃべり(ジュニア編)
- ・ホームステイプログラム など

4ポイント以上ためると応募可能

詳しくは右記「イベント紹介」をご確認ください。

チャレンジプロジェクト

イベント紹介

★地球人まつりボランティアスタッフ



毎年1月に開催される“市”上最大の国際交流イベント「地球人まつり」に向け、各国のチームに分かれて約1か月に渡り企画や準備を行います。当日の達成感は格別です。

★外国語deおしゃべり(ジュニア編)

松山在住の外国人ゲストと英語のみを使い、ゲームやクイズなどを通じて交流します。



★世界一大きな授業(ユネスコ編)



松山ユネスコ協会から講師をお招きし、世界中で同じ時期に教育の大切さを考えようという世界規模のイベント「世界一大きな授業」を実施しています。

“まつやま国際交流センター”ってどんなところ?



まつやま国際交流センターは、Matsuyama International Centerの頭文字をとって「MIC(ミック)」の愛称で親しまれています。松山で暮らす人たちが人種・国籍・宗教などにかかわらず、仲良く快適に暮らせるよう、さまざまなサービスを行っています。

①「私も何かしてみたい!」という皆さんへ

★ボランティアのための語学講座

ボランティア活動に役立つ実践型語学講座(英語、韓国語、中国語)を半年ごとに開講しています。



★ホストファミリーバンク

ホームステイを希望する外国人を受け入れるホストファミリーとして登録していただきます。受け入れは随時行っています。



★MMF(My Matsuyama Family)

松山在住の留学生にとっての「第2の故郷=松山の家族」をつくらせていただくための制度です。登録者と留学生をMICでマッチングした後は、自由に交流できます。



★外国人オタスケマン

困っている外国人の力になりたい、という方にご登録いただき、ご近所感覚で外国人のサポーターとして活躍していただきます。

②イベントを通して国際交流を体験してみよう!

★地球人まつり(1月)

市民と外国人市民の皆さんとの交流を深めてもらおうと、毎年1回開催しています。世界各国の遊びや文化、料理などを体験できます。

★国際交流サロン(随時)

市民と外国人市民とが楽しみながら交流できるイベントを随時開催しています。



★地域での交流活動のサポート(随時)

地域のイベントに市民と外国人市民がいっしょに参加し、交流します。

③外国人市民の皆さんへ

★窓口相談サービス

外国人市民の皆さんからの相談対応や、松山で生活をする上で必要な生活情報の提供を行っています。また、毎月1回外国人のための行政書士無料相談も行っています。

★外国語としての日本語教室

外国人市民を対象に無料で開講しています。託児サービス(無料)もあります。



★自転車の貸し出し

短期滞在の外国の方に対して、無料で自転車の貸し出しを行っています。



国際交流情報が満載のMICメールニュースを週に1回配信しています。

配信希望の方は mail@mic.ehime.jp までメールを送ってください。

お問い合わせ

まつやま国際交流センター(MIC)

〒790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ1階

TEL:089-943-2025 FAX:089-931-2041

E-mail: mail@mic.ehime.jp <http://www.mic.ehime.jp/MIC/top.html>

MIC Facebookはこちら

